

社会科学習指導略案

6年3組 29名 指導者 柳田 健一

1 小单元名 天皇中心の国づくり (大单元名：日本の歴史)

2 小单元の構造 概念構造図 「天皇中心の国づくり～飛鳥・奈良・平安～」

【中心概念】

【基本的内容】

【基礎的事項】

聖徳太子の新しい国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、聖武天皇のころには、都から全国に広がった。	① 聖徳太子は、冠位十二階や十七条の憲法を定め、遣隋使を派遣して、政治の仕組みなどの大陸の文化を積極的に摂取しようとした。	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子・小野妹子・天皇・遣隋使・仏教 法隆寺・世界文化遺産・豪族・蘇我氏 冠位十二階・十七条の憲法
	② 中大兄皇子や中臣鎌足が蘇我氏を倒し、大化の改新を成し遂げ、天皇中心の国づくりをめざした。	<ul style="list-style-type: none"> 中大兄皇子・中臣鎌足・大化の改新・公地公民 班田収授法・貴族・平城京・壬申の乱 大宝律令・租庸調
	③ 聖武天皇は、国分寺や大仏を建て、仏教の力で社会の不安をしずめ、国を治めようとした。	<ul style="list-style-type: none"> 聖武天皇・平城京・長安・碁盤の目・和同開珎 朱雀王子・国分寺・大仏・国分尼寺・東大寺
	④ 聖武天皇の命令によって、全国から人々や物資が集められ、大仏が建立された。	<ul style="list-style-type: none"> 行基・大仏・日照り・伝染病(天然痘)・遷都 恭仁京・難波宮・紫香楽宮・平城京 東大寺大仏殿
	⑤ 遣唐使や留学生によって、中国の進んだ文化や文物がもたらされ、仏教も鑑真によって正式に広められた。	<ul style="list-style-type: none"> 鑑真・遣唐使・留学生・仏教・正倉院 大宰府政庁・鴻臚館・唐招提寺・国宝・渡来人
	⑥ 藤原道長は、娘を天皇の后にするなど、天皇との結ぶつきを強め、貴族として摂関政治を行い、絶大な力を得た。	<ul style="list-style-type: none"> 藤原道長・平安京・寝殿造り・和歌・蹴鞠 雛祭り・七夕・相撲
	⑦ 藤原氏が栄えていたころ、貴族を中心に、日本風の文化(国風文化)が起こった。	<ul style="list-style-type: none"> 紫式部・清少納言・源氏物語・枕草子・大和絵 束帯・十二単・極楽浄土・阿弥陀堂 平等院鳳凰堂・かな文字・小倉百人一首

3 指導計画(総時数9時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
つかむ・見通す	1 世界文化遺産の法隆寺と聖徳太子との関連を話し合い、聖徳太子の業績や考えに関心をもつ。 【関・意・態】 聖徳太子の業績に関心をもっている。	1
	2 聖徳太子がめざした国づくりが、どのように受け継がれていったかを予想し、追究の柱を立てる。 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 聖徳太子のめざした国づくりは、誰にどのように受けつがれていったのだろうか。 </div> ・学習問題をつくる。 ・学習問題について予想し、追究の柱を立てる。 ◎政治や経済のしくみ ◎人々のくらしや文化 ◎歴史上の出来事や人物の業績 【思・判・表】 学習問題について予想し、追究の柱(見通し)を立てている。	1 本時
調べる	3 聖徳太子後の国の政治や人々のくらしがどうなったか、調べ、話し合う。 【技能】 中大兄皇子や中臣鎌足の業績について調べ、調べたことをもとに話し合っている。	1
	4 聖武天皇が行った国づくりを調べ、国分寺や大仏をつくらせた理由を考え、話し合う。 【思・判・表】 聖武天皇は、仏教の力で社会の不安を鎮め、国を治めようとして国分寺や大仏をつくらせたと考え、話し合っている。	1
	5 大仏が造られるまでの過程を調べる。 【知・理】 天皇の命で、全国から人々や物資を集め、大仏づくりが行われたことを理解している。	1
	6 遣唐使や留学生、渡来人の働きについて調べる。 【知・理】 聖武天皇が、遣唐使や渡来人などを通して、大陸の文化を取り入れようとしていたことが分かっている。	1
まとめる・生かす	7 藤原道長を通して、政治のしくみや平安京の貴族のくらしについて調べる。 【技能】 屋敷の想像図、貴族の食事などの資料をもとに貴族の華やかなくらしを読み取っている。	1
	8 藤原氏が栄えていたころの文化について調べる。 【知・理】 さまざまな日本風の文化が起こったことを理解している。	1
	9 これまでの学習をまとめ、人物の業績や気持ちなど考えて話し合い、国づくり新聞にまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 聖徳太子に国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、大陸から仏教や政治のしくみ、文化を取り入れることで、聖武天皇のころには、都から全国に広がった。 </div> 【思・判・表】 天皇中心の国づくりや日本風の文化が起こった様子を適切に表現している。	1

4 本 時 (2/9)

(1) 目 標

聖徳太子が仏教を尊び、大陸から文化や政治のしくみを学びながら、天皇中心の国づくりをめざしていたことを理解させ、小単元の学習計画(学習問題・追究の柱)を立てることができるようにする。

(2) 評価規準

調べて分かったことを基に、学習問題をつくり、予想し、追究の柱(見通し)を立てている。

【社会的な思考, 判断, 表現】

(3) 指導に当たって

本時は、「つかむ・見通す」過程の第2時で、小単元の学習問題をつくり、追究の柱を立てる時間とする。導入で、聖徳太子がめざした国づくりは、天皇中心のものであったことを理解させ、小単元の学習問題「聖徳太子のめざした国づくりは、だれがどのように受け継いでいったのだろうか。」をつくる。次に、学習問題を追究するためにどのようなことを調べればよいか、予想させる。この予想が、本時で立てる3つの追究の柱となる。本時では、子どもたちの予想をグループから全体で話し合うことを通して、次時への見通しをもたせ、オープンエンドで終わりたい。

(4) 本時の展開

[]: 子どもの意識 ㊦: 資料 ㊧: 指導 ※: 評価

時	過程	主 な 学 習 活 動 と 教 師 の 手 だ て ・ 評 価
10	つかむ・見通す	<p>1 前時に調べた聖徳太子の業績から、聖徳太子がめざした国づくりについて話し合う。</p> <p>【学習のめあて】</p> <p>聖徳太子は、どんな国づくりをめざしていたのだろうか。</p> <p>【中央集権的な政治のしくみを整えた業績から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠位十二階や十七条の憲法を定めた。 ・仏教の教えを政治に取り入れた。 ・小野妹子らを随に派遣し、大陸の文化を学ぼうとした。 <p>【天皇中心の国づくりをしようとしたと考えられる理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇の子どもとして生まれているから。 ・20歳で摂政になり天皇を助けているから。 <p>→しかし、志半ば49歳で亡くなった。</p> <p>聖徳太子は、大陸文化を積極的に取り入れて、摂政として、天皇中心の国づくりをめざしていた。</p> <p>㊦: 聖徳太子の肖像画</p> <p>前時に調べた聖徳太子の生い立ちや業績を発表させ、太子がめざしたことにつなげる。</p> <p>㊦: 十七条の憲法の訳</p> <p>聖徳太子は49歳志半ばで亡くなった事実から「死後、国はどうなったのか。」という子どもたちの疑問を引き出し、学習問題を立てる。</p>
30	調べる	<p>2 疑問をもとに、単元の学習計画(学習問題・追究の柱)を立てる。</p> <p>【学習問題】</p> <p>聖徳太子のめざした国づくりは、誰に、どのように受けつがれていったのだろうか。</p> <p>3 学習問題について予想し、追究の柱を立てる。(グループ→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中大兄皇子と中臣鎌足が大化の改新を起こしている。 ・資料集に「改新後の政治のしくみ」という資料がある。 ・聖武天皇が大仏を造っている。 ・唐から鑑真という偉いお坊さん(高僧)が来ている。 ・遣隋使に代わって遣唐使というものもあるよ。 ・大陸から伝わった宝物を保管する正倉院という建物が建てられた。 ・藤原道長という人も関係していそうだ。 ・貴族が豪華な着物を着て、豊かな暮らしをしていそうだ。 <p>※ 前時までの学習を生かして3つの柱を立てている。 【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柱が立てられた子どもには、柱ごとの予想をノートに書くように指示する。 ・柱が立てられない子どもには、前時までの学習を生かしたり、グループの友達と相談したりするよう指示する。
5	まとめる・生かす	<p>【追究の柱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 歴史上の出来事と人物の業績 ◎ 政治や経済のしくみ ◎ 人々の暮らしや文化 <p>4 授業の感想を発表させ、オープンエンドで終わる。</p> <p>教科書や資料集から気付いたことを褒め、意欲づける。</p>